

平成30年度使用教科用図書の採択について

高知大学教育学部附属小学校

教科 採択教科書	採択理由
国語 東京書籍	単元の終わりに「言葉の力」のコーナーがあり、単元においてどのような力をつけることが必要なのかが明記されており、確かな「言葉の力」を育てる教科書として編集されている。また、年間を通じて、物語・説明文を読解する単元、書くこと・話す・聞くことの言語活動が中心となる単元、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の単元が、バランス良く配置されているとともに、配置の順が各学年ともだいたいそろっている。そのため、複式学級を有する本校として使いやすいと判断した。
国語（書写） 東京書籍	教科書への書き込みのページが多くとられ、練習帳としての役割を持った教科書として編集されており、手本となる文字を見ながら練習をおこないやすいという特徴がある。また、手紙や新聞を書くといった単元が組み立てられており、書写の学習で学んだことを生活に生かすことができるようになっている。写真などの資料も豊富で、子どもが書写に興味をもって、取り組むことができると判断した。
社会 教育出版	身近な社会的事象とのかかわりの中から子どもたちが自ら問題を見出し、その解決に向けて考え、表現し合いながら主体的に追求していくことができる構成・展開となっている。単元の後半には、自分たちなりに社会参画していく力を育てられるような、自分たちの「これから」について考え合う活動が設けられている。これらのことから、本校の児童も主体的に学習ができるのではないかと判断した。
地図 東京書籍	地図をできるだけ大きく提示している。また、ユニバーサルデザイン（UD）書体を全編に使用していて、大変見やすい（特に統計や索引が分かりやすい）。また、地図記号、索引、方位、縮尺、地形表現、土地利用といった基本的な地図の読み方や、地球儀の活用の仕方について、丁寧に分かりやすく説明している。これらのことから、本校の児童どの子どもが、自主的に活用できるのではないかと判断した。
算数 東京書籍	取り扱っている教材が児童の興味・関心を引き出しやすいものが多く、授業づくりの参考になる。そして、1～3時間の指導内容が見開き2ページにきれいにレイアウトされている。写真や絵、キャラクターなども工夫して配置されており、児童にとっても見やすい紙面構成であるとともに、子どもが自ら問題解決に取り組めるように、手がかりとなる考え方がふき出しなどを用いて効果的に取り入れられている。また、絵からテープ図、対応線分図への「図の系統性」が子どもの発達段階に応じて系統的に扱われるようになっており、数量関係を把握するための指導に効果的である。巻末の補充問題や発展的な問題が充実しており、習熟や子どもの算数に対する興味を高める学習に役立てることができる。巻頭に、複式学級の算数科年間指導計画が示されており、日々の複式授業の参考になる。上記の点から使用することが適切であると判断した。

理科 大日本図書	子どもが自ら問題を見出すことができるよう、導入や学習展開を工夫している。また、各学年で重点的に育成すべき項目をふまえた問題解決の過程を設定している。さらに、子どもにとっては観察カードやノートへの表現方法を示しているため記述の仕方がわかりやすく、図や写真が多く用いられているので実験の手順も見通しをもちやすい。上記の特徴や、本校の学習指導の展開などと総合的に検討し、使用することが適切であると判断した。
生活 東京書籍	活動への意欲や期待感を喚起する美しい写真、イラストが豊富に掲載されていて、児童が活動する際の参考として取り入れやすくなっている。また、写真の児童の吹き出しに聴覚や嗅覚などの諸感覚を働かせる言葉が使われているため、児童の思考・表現活動が活性化され、そこから生まれる気付きの質が高まるような工夫がなされている。上記の特徴や、本校の学習活動の展開などと総合的に検討し、使用することが適切であると判断した。
音楽 教育出版	基礎的・基本的な内容を取得できる題材群①と、題材群①で培った力を活用できる題材群②によって題材が構成されており、学習に広がりをもたせることができる。授業の導入等で使える輪唱・合唱教材や、リズム遊び等のコーナーがオプションとして設けられており、学校の実態に応じて選択できる。また、学習の手助けとなる資料や写真が、折込みの内容を工夫して豊富に掲載されている。上記の特徴や、本校の学習指導の展開などと総合的に検討し、使用することが適切であると判断した。
図画工作 日本文教出版社	誰にでも分かりやすく使いやすい「子どもが見える 授業が見える」教科書になっている。また、子どもの発達に合わせて全体が構成されており、「学習のめあて」も載せられてあるため授業がイメージできるようになっている。また、「使ってみよう材料と用具」のページでは、安全で適切な材料と用具の使い方を学ぶこともできる。さらに、地域性、人権や福祉、防災、言語活動や道徳との関連など、今日的な課題にも配慮されているため、使用することが適切と判断した。
家庭 開隆堂出版	まず、教科書の見開きに、2年間で児童に教えたいことや身につけさせたいことがコンパクトにまとめられており、効率よく見通しをもって学習に取り組ませることができる。また、題材の中での作り方の過程や作業手順が横一列に並んでいるため、子どもにとって手順が分かりやすく見やすい。そして、それを活用するための具体的な活動例が写真とともに取り上げられていて、児童の意欲・関心を高める工夫をしている。安全に対する記述も詳しい上、見やすく書かれている。学期末にあたるころには「チャレンジコーナー」が設けられており、長期休業中でも家庭で取り組める内容になっている。完成形の写真もあり、子どもが「おもしろそう」と興味をもって取り組める題材が多いため、使用することが適切であると判断した。

<p>体育（保健） 文教社</p>	<p>児童が興味・関心をもって学習に取り組むことができるように、子どものキャラクターが吹き出しや会話で学習を進めていく構成になっている。そして、触れさせたい内容については、養護教諭等の大人のキャラクターを提示し、身に付けさせたい基礎・基本を理解する一助となるように工夫されている。課題追求に必要なイラストや写真・グラフが精選されており、視覚効果を重視したレイアウトとなっている。また、多様な記入欄が設定されており、子どもが書き込む活動を通して主体的に楽しみながら学習を進められるよう工夫されている。上記の特徴や、本校の学習指導の展開などと総合的に検討し、使用することが適切であると判断した。</p>
<p>道徳科 日本文教出版</p>	<p>本教科書は、現代の子どもたちの実情に合っている資料が多く掲載されている。また、各資料において、初めに何を考えたらよいのかが明記されており、終わりにも「考えてみよう」という手引きのコーナーがあり、本時の始めと終わりで自分の気持ちの変化に気づく指導をおこなうのに適している。「見つめよう、生かそう」の手引きのコーナーがあり、「自分だったら」を考えることができるようになっている。この時間で子ども自身が気づいたこと学んだことが分かり、子どもの学習に対する伸びも捉えやすいことから、使用することが適切であると判断した。</p>